

## 8月咲き短茎小ギクの定植期の拡大に適する黄色品種

【要約】 8月咲き 短茎小ギク栽培の黄色品種‘レモン’‘ひまわり’は、4月下旬定植から6月上旬定植（ジベレリン50ppm液を2回茎葉散布）において、切り花長40cm以上の採花割合が他の品種に比べ高く、定植期を遅らせても安定生産でき品質も優れる。また、採花時期も盆前となり需要期に向けた生産に適する。

農業技術振興センター・栽培研究部・湖北分場

【実施期間】 平成19年度～平成20年度

【部会】 農産

【分野】 高品質化技術

【予算区分】 県単

【成果分類】 指導

### 【背景・ねらい】

湖北地域では、切り花長80cm小ギクの生産は秋から翌年の夏までと栽培期間が長く、肥培管理や防除など高度な技術と労力を要するため、作付け面積が減少している。そこで、新たな需要拡大にあわせ、栽培期間が短く、栽培管理も簡易な切り花長60cmおよび40cmの短茎小ギクの定植期の拡大を目指すため、本試験では8月咲き小ギクの中でも需要の見込まれる黄色品種6種の定植限界期と短茎栽培に適する品種の選定を行う。

### 【成果の内容・特徴】

- ① 供試品種の採花時期は‘レモン’‘ひまわり’‘山手黄’が早く、次いで‘金水’‘秀光’‘小鈴’の順である。需要の多い盆前（7月中下旬から8月2半旬）に採花が50%以上可能となる定植時期は、‘小鈴’は5月12日以前、他の5品種は5月20日以前である。6月5日定植では摘心後腋芽生育初期にジベレリン50ppm液を2回散布処理（以下、GA処理）することにより一部採花が可能である（図1）。
- ② ‘レモン’‘ひまわり’は60cm以上の採花割合が他の品種に比べ優り、次いで‘秀光’が高い（表1、図2）。また、平均切り花重はいずれも27g～18gで切り花品質に支障はない（表1）。
- ③ 6月5日定植（GA処理）では、‘レモン’‘ひまわり’‘秀光’は切り花長40cm以上の採花割合が5月20日とほぼ同等で40cm以上は80%以上である（図2）。

### 【成果の活用面・留意点】

- ① 各作型とも、これまでの短茎小ギク栽培試験に基づき、定植前20日頃に挿し芽した苗を用い、畝巾約150cm、株間12cm、条間40cmの千鳥2条植で5本仕立てとした。施肥は畝立て前に粒状苦土石灰12kg/a、定植直前に重焼リン4kg/aと有機アグレット727（N成分0.5kg/a）＋エコロン<sup>®</sup>424-100日タイプ（N成分0.5kg/a）を畝上施用・浅耕し、黒マルチで畝全体を被覆した。追肥は無施用とし、防除は慣行管理に準じて行った。
- ② 当試験の採花目安は、1本あたり1～2輪が開花したときとしたため、市場出荷する場合の採花時期は当データより数日程度早くなる。
- ③ 現地指導する場合、気象や土壌条件の違い等により年次変動が予想されるため留意する。

[具体的データ]

図1 各品種の定植期別の採花期間

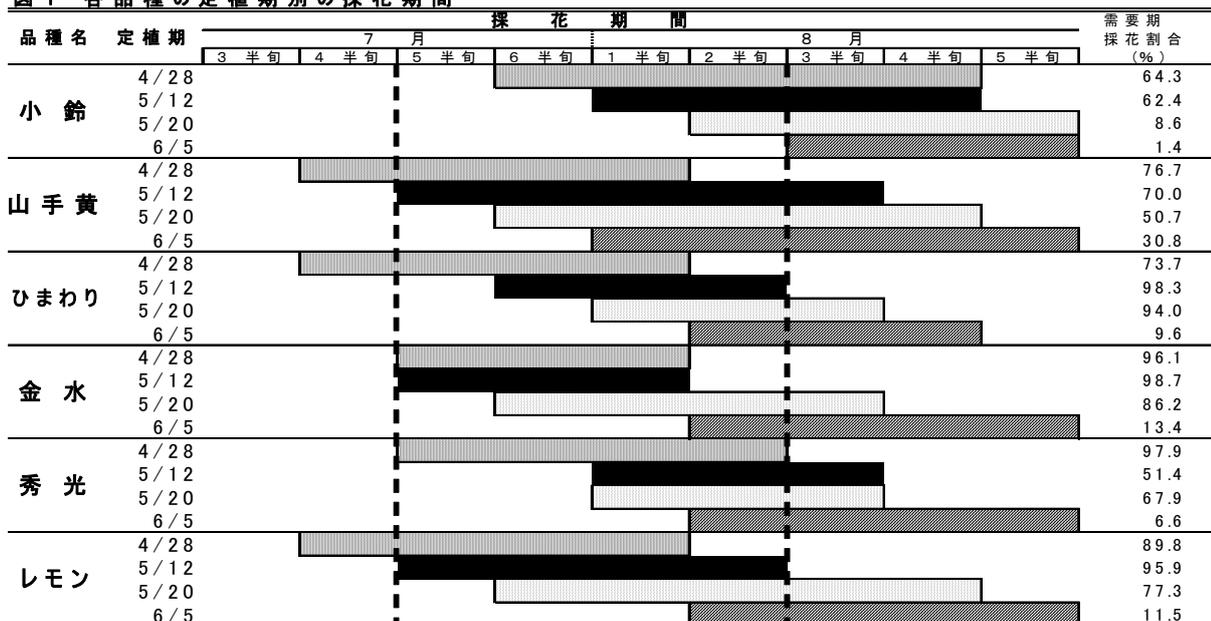


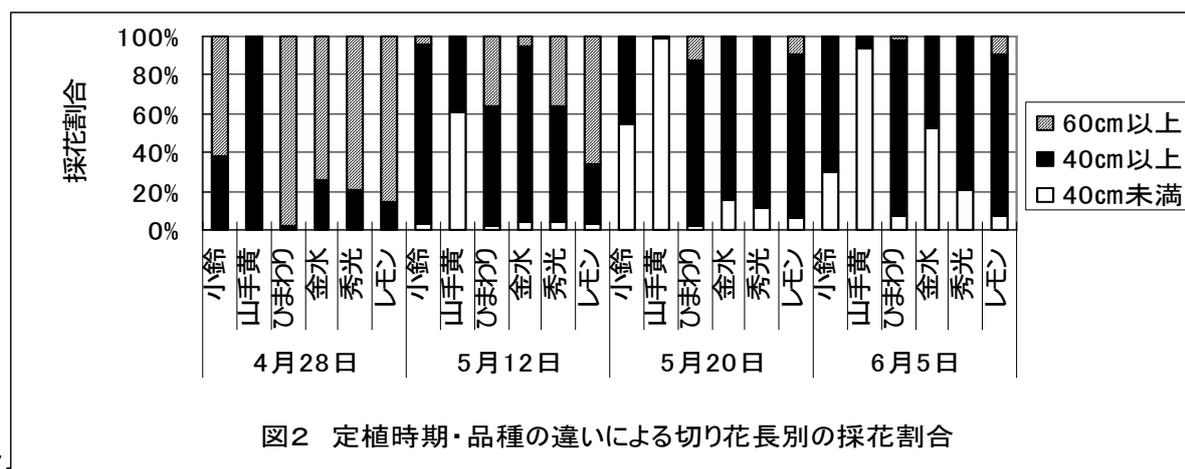
表1. 定植時期が各品種の切り花品質に与える影響

(単位: cm、g)

定植期 (月/日)	品種名											
	小鈴		山手黄		ひまわり		金水		秀光		レモン	
	切り花長	切り花重 <sup>注2</sup>	切り花長	切り花重								
4/28(標準)	60.3	23.3	45.0	17.3	69.8	23.5	62.5	24.3	64.6	27.7	67.9	25.6
5/12	49.9	17.4	35.5	15.4	57.5	21.3	50.7	20.5	55.9	26.8	60.5	25.3
5/20	37.6	15.6	28.1	8.0	53.8	19.0	44.0	15.8	46.8	22.4	52.0	18.0
6/5(GA) <sup>注1</sup>	42.8	21.6	31.6	17.7	50.5	20.2	38.4	20.3	43.1	21.3	51.7	20.9

注1) 6月5日定植区はジベレリン50ppm液を7/2と7/14に茎葉散布した。

注2) 切り花重は切り花長60cm以上は60cmに切り、下葉30cmを掻き、60cm未満は切りらずに下葉20cmを掻いた測定値。



・研究課題名

大課題名：消費者の多様なニーズに応える高品質・高付加価値化技術の開発

中課題名：安全・安心・高品質な農畜産物の生産技術の開発

小課題名：湖北地域の基幹作物・特産物等栽培改善確立試験

・研究担当者名：高畑正人 (H19～H20)、山中成元 (H19～H20)

・その他特記事項：平成19年度技術的試験研究要請課題(普及部)